

## 学部・学科の垣根を越えた 医療人底力教育

1991年、日本初の4年制医療系大学として開学した鈴鹿医療科学大学。当初は保健衛生学部放射線技術科学科・医療栄養学科、医用工学部医用電子工学科・医用情報工学科の2学部4学科でした。その後、医療の専門家や三重県からの要請に応える形で領域を拡げていき、現在は4学部9学科11領域と2研究科を構える医療・福祉の総合大学となっています。薬学から東洋医学の鍼灸学まで、医療・福祉に関する幅広い学科があるのは、日本でもここだけです。

2019年4月からは、現在の理学療法学科をリハビリテーション学科※へと改称。理学療法専攻と新たに作業療法専攻を設けて、より医療現場のニーズに合わせた知識と技術を身につけられるようにと、準備を進めています。

「医療現場では、チームでさまざまな問題に対応します。医療・福祉の総合大学というメリットを生かし、学部学科混成のクラス編成で体験学習やチーム活動に取り組み、チーム医療に不可欠な能力を育んでいます」と話すのは、医学博士の高木久代さんと、鍼灸学博士の浦田繁さん。教育理念は「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」。自ら考え、仲間と協力し実践していく力を養うため、「医療人底力教育」というユニークな基礎教育を1年次から実践しています。内容は大きく分けて2つ。1つは学部や学科を越え



保健衛生学部  
鍼灸サイエンス学科 教授  
医学博士  
高木久代さん



保健衛生学部  
鍼灸サイエンス学科 教授  
鍼灸学博士  
浦田繁さん

得できます。「北海道や九州から飛行機で来て、受講されている方もいらつやいます。東洋の伝統医学に、西洋医学の基礎と栄養学のエッセンスを加えた新しい薬膳が学べると魅力を感じていただいているようです」と、高木さんはほほ笑みます。

## 地域に開かれた大学として 新しい取り組みを

「鈴鹿医療科学大学では、いろいろな学科が産学官連携に参画しています」と浦田さん。地元病院や企業と協力して、管理栄養学専攻の教員と学生が高齢者用の高タンパク料理レシピを考え、三重県の食材を使った期間限定弁当などの商品開発にも関わってきました。

ほかにも大学構内に誘致した「鈴鹿ロボケアセンター」で福祉用のロボットスーツHAL®を利用したカ



身体機能を改善・補助・拡張・再現できるロボットスーツHAL®を利用したカリキュラムで、最先端の自立動作支援を学んでいます

てチームを結成し、介護や救命救急などの実習を通して、現場で何を考えどう行動すべきかをシミュレーションする「体験プログラム」。もう1つは、5〜6人のメンバーでテーマを掲げて調査し、意見を交わしながらひとつの答えを導き出す「プレゼンテーション」です。3・4年次になると三重大学の医学部の学生とも連携。チーム医療の授業を展開します。

2015年には、東海地区の大学としては初めて、キャンパス隣接地に特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」を開設。学生は、高齢者と接するマナーや知識、技術を学び、入居者とのコミュニケーションを図る施設実習に取り組みほか、ボランティアとしての活動も実施。さまざまな形で活気あふれる交流を行っています。

## 薬膳を活用した養生法の 人材育成と啓発活動に注力

2013年には、「健康的に長寿を迎えるために、食に関する養生法を正しく普及させたい」と「一般社団法人日本薬膳学会」を設立。「健美和膳」をテーマに日本の風土、日本人に合った薬膳を活用できる人材育成と啓発活動を行っています。講座の種類は、学生向けから一般の人でも気軽に受けられるセミナーまで多彩。医療栄養学科と鍼灸サイエンス学科の教員が主体となって講義を行っているのも特徴です。一般の人を対象にした「管理栄養師養成講座」では、東洋と西洋の両面から基本的な医学知識や栄養について学び、試験に合格すると管理栄養師の認定資格を取

リキュラムを実践。また、「一般社団法人日本食品安全協会」の事務局も誘致し、食品・保健機能食品の高度な専門知識を持つスタッフの養成にも力を注いでいます。

「医療職は自ら働きかけていく仕事。高いコミュニケーション力を持ち、何においてもトライする人材になってほしい。そのため仕掛けを用意し、人間性など目に見えないものをいかに学びとってもらうかが、大学の使命だと思っています」と浦田さん、高木さんも「大学が中心になって、地域のみなさんの健康寿命を延ばすお手伝いできればと思います。活動の場を広げていきます」と続けます。

2017年4月には千代崎キャンパスに「このころのクリニック」と「このころの相談センター」を同時開設。地域に開かれた相談機関として、子どもの不登校や発達障害の問題、職場での人間関係などに対応するほか、教育の場としても活用し、学生は実践力を身につけています。

未来の医療・福祉に関わる人たちの成長を促しながら、地域の人がいま、必要とする機能も持ち合わせる鈴鹿医療科学大学。さまざまな取り組みで私たちの生活に寄り添ってくれています。

## 薬膳の正しい活用法の普及にも取り組む鈴鹿医療科学大学 [巻頭特集]

# 学生を育成しながら、地域社会に貢献

三重県内にとどまらず全国各地から約2,700人の学生が集まる「鈴鹿医療科学大学」。充実した施設と環境、一歩先を行く新たな試みを通して、学生たちはさまざまな経験を重ね、医療・福祉の現場へ羽ばたいていきます。

## 鈴鹿医療科学大学

鈴鹿市岸岡町1001-1(千代崎キャンパス)  
鈴鹿市南玉垣町3500-3(白子キャンパス)  
TEL059-383-8991(代表)  
www.suzuka-u.ac.jp

※2019年4月設置構想中



学科を越えた交流で広い教養と人間性を養い、チーム医療を体感しながら身につけられるのは、医療・福祉の総合大学ならではの。1年次は基礎教育として「医療人底力教育」に取り組み、学部の枠を越えたメンバーで体験学習とチーム活動を体験し、3・4年次になると「医療人底力実践（展開・応用）」に移ります



みかん、もやし、サバ缶、納豆など身近な保健機能食品に、生姜や山芋などの漢方素材をプラス、日本食をアレンジすれば、美味しく健康にいい「健美和膳」



日本薬膳学会が提唱するのは、東洋医学を融合した新しい薬膳。講座の参加者は20代から70代まで幅広く、鍼灸師や管理栄養士など医療に従事している人も多くいます